情報処理工学第5回

藤田一寿

公立小松大学保健医療学部臨床工学科

論理演算

■ 論理演算

- ・1(真)か0(偽)の2つの値(真偽値)に対して行う演算・1か0だからといって2進数とは違う。
- コンピュータは論理演算を用いて計算を行っている.
- コンピュータの処理をより理解するため論理演算を学ぶ.

•1か0かは、電気回路ではスイッチのオンオフ、電流が流れる流れない、電圧が高い低いなどに対応していると考えられる.

■論理演算の種類

- 論理積, AND
 - 掛け算, かつ, に対応
- 論理和, OR
 - 足し算,または,に対応
- 否定, NOT
 - ・ではない
- NAND (ナンド)
- NOR (ノア)
- 排他的論理和, XOR (エックスオア)

■ 論理積ANDと論理式

- •掛け算に相当する計算
- 集合においては積集合(かつ)に相当する
- 例
 - $0 \cdot 0 = 0$
 - $0 \cdot 1 = 0$
 - $1 \cdot 0 = 0$
 - $1 \cdot 1 = 1$
- 変数Aと変数Bの論理積の結果が変数Yとなる場合は
 - $A \cdot B = Y$
- •と書ける.このように論理演算を代数式で表現したものを**論理式**と言う.

論理積ANDと真理値表

• A • B = Yは代数式ではあるが、それぞれの代数が0か1の値しか取らないので計算の全パターンを書ける。

•
$$A \cdot B = Y$$

•
$$0 \cdot 0 = 0$$

•
$$0 \cdot 1 = 0$$

•
$$1 \cdot 0 = 0$$

•
$$1 \cdot 1 = 1$$

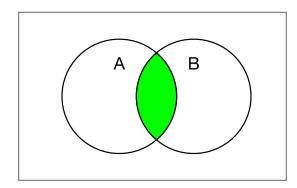
ANDの真理値表

Α	В	Υ
0	0	0
0	1	0
1	0	0
1	1	1

• 上記の計算を表で表したものを真理値表という.

論理積ANDとベン図

- ・ 論理積は集合においては積集合に相当する.
 - A·BはAかつBに相当(Aに含まれかつBにも含まれる)
- 集合はベン図を用いて表すことができる.
 - ベン図は論理演算を視覚的に理解する手助けとなる事がある.
 - A=1(真)とは集合Aに含まれることを意味する.
- $A \cdot B = 1$ は、集合では「AかつBが真である」に相当する.
- ベン図においてAかつBが真である部分はAとBが重なる部分である.



論理和OR

- 足し算に相当する計算
- 集合においては和集合(または)に相当する

• 例

- 0+0=0
- 0+1=1
- 1+0=1
- 1+1=1

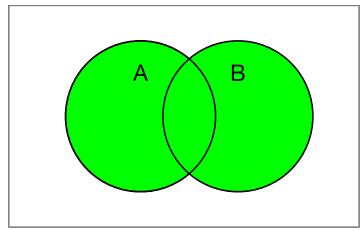
ORの真理値表

А	В	Υ
0	0	0
0	1	1
1	0	1
1	1	1

- 変数Aと変数Bの論理和の結果が変数Yとなる場合は
 - A + B = Y
- ・と論理式で表せる.

論理和ORとベン図

- ・ 論理和は集合においては和集合に相当する.
 - A+BはAまたはBに相当
 - Aに含まれるか、または、Bに含まれるか
- A + B = 1は、集合では「AまたはBが真である」に相当する.
- ベン図においてAまたはBが真である部分はAとBすべての領域である.



■ 否定NOT

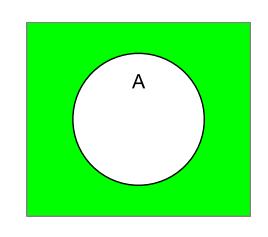
- •1(真)の否定は0(偽),0(偽)の否定は1(真)
- 集合において、補集合に相当する. Aではない.
- ・変数Aの否定の結果が変数Yとなる場合は

$$\overline{A} = Y$$

・と書ける.

NOTの真理値表

Α	Υ
0	1
1	0

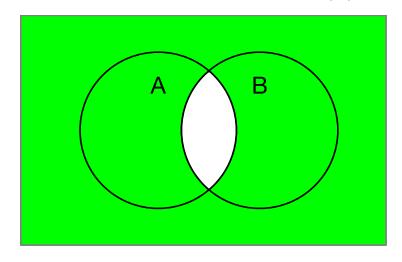


 $\bar{A}=1$ はAが偽であることに相当する. ベン図においてAが偽である部分はAの外の領域である.

NAND

- ・論理積(AND演算)を否定したもの.
- $\overline{A \cdot B} = Y^{c}$ 表せる.

 $\overline{A \cdot B} = 1$ に対応するベン図



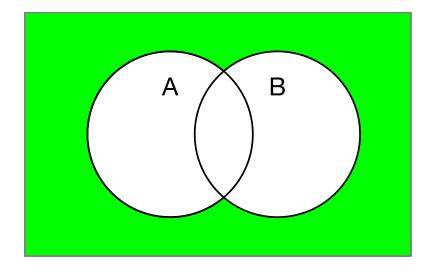
NANDの真理値表

Α	В	Υ
0	0	1
0	1	1
1	0	1
1	1	0

NOR

- 論理和 (OR) を否定したもの.

 $\overline{A+B} = 1$ に対応するベン図



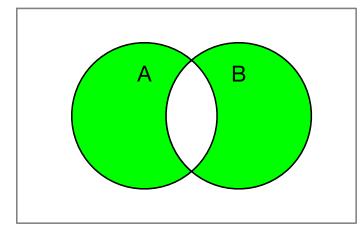
NORの真理値表

А	В	Υ
0	0	1
0	1	0
1	0	0
1	1	0

■ 排他的論理和XOR

- 右下の真理値表に示すような演算を排他的論理和 (XOR, exclusive OR) と呼ぶ。
- 入力が同じなら0(偽)を出力し、入力が異なれば1(真)を出力 する。
- 論理式では $A \oplus B = Y$ と表せる.

A⊕B = 1に対応するベン図



XORの真理値表

А	В	Υ
0	0	0
0	1	1
1	0	1
1	1	0

真理値表を作る

■ 論理式から真理値表を求める

$$A \cdot \overline{B} + \overline{A} \cdot B = Y$$

Α	В	Υ

■ 論理式から真理値表を求める

まず入力A・Bを埋める.

$$A \cdot \overline{B} + \overline{A} \cdot B = Y$$

Α	В	Υ
0	0	
0	1	
1	0	
1	1	

■ 論理式から真理値表を求める

論理式に値を代入して、Yを計算する.

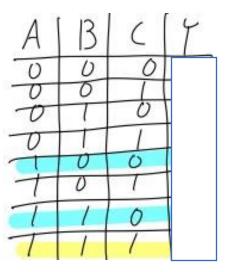
$A \cdot \overline{B} + \overline{A} \cdot B = Y$ この論理式はXC			論理式はXOR
Α	В	Υ	
0	0	0	0.141.0=0
0	1	1	0.0+1.1=1
1	0	1	1.1+0.0=1
1	1	0	1.0+0.1=0

・次の論理式の真理値表をかけ.

$$(1) Y = \overline{A} + B$$

$$(2) Y = A \cdot B + \bar{A} \cdot \bar{B}$$

$$(3) Y = A \cdot B \cdot C + A \cdot \overline{C}$$

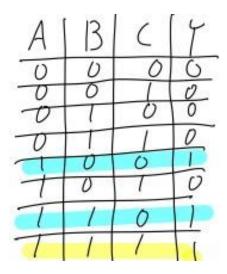


次の論理式の真理値表をかけ. (1) A

$$(1) Y = \overline{A} + B$$

$$(2) Y = A \cdot B + \bar{A} \cdot \bar{B}$$

$$(3) Y = \underline{A} \cdot \underline{B} \cdot \underline{C} + \underline{A} \cdot \overline{C}$$



ベン図を使う

演習

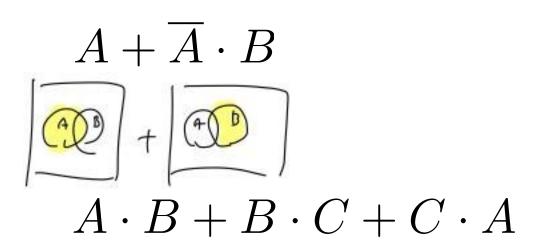
• 次の論理式をベン図で表わせ. ただし, 論理式が真となる部分を塗りつぶせ.

$$A + \overline{A} \cdot B$$

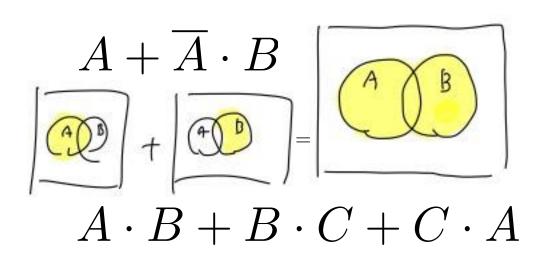
$$A \cdot B + B \cdot C + C \cdot A$$

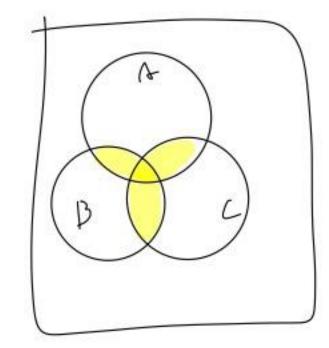
演習

• 次の論理式をベン図で表わせ. ただし, 論理式が真となる部分を塗りつぶせ.



• 次の論理式をベン図で表わせ. ただし, 論理式が真となる部分を塗りつぶせ.

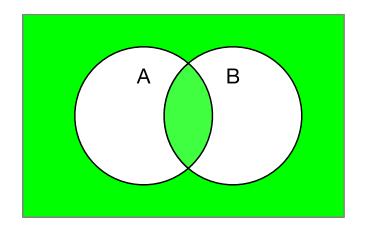




ベン図の足し算は塗られた部分が足し合わされる.

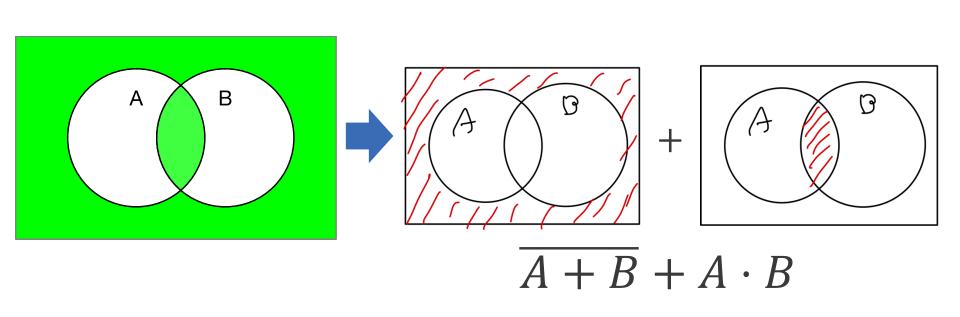


・次のベン図が表す論理式を示せ.



■ 演習

• 次のベン図が表す論理式を示せ.



論理演算

論理演算の公理・定理

A+0=A

 $A \cdot 1 = A$

 $A + \overline{A} = 1$

$$A + B = B + A$$

$$A \cdot B = B \cdot A$$
$$A + (B \cdot C) = (A + B) \cdot (A + C)$$

$$A \cdot (B+C) = A \cdot B + A \cdot C$$

$$A \cdot \overline{A} = 0$$

- 覚える必要なし、言いたいことは2点のみ、 論理演算は、交換則が成り立つ。つまり、中学校で習った
- 数学が使える ここまでのスライドの内容を理解していれば自明なことば かり

 $A \cdot A = A$

A + A = A

A + 1 = 1 $A \cdot 0 = 0$

 $A \cdot (A + B) = A$

 $A + (A \cdot B) = A$

 $\overline{\overline{A}} = A$

(A + B) + C = A + (B + C)

 $(A \cdot B) \cdot C = A \cdot (B \cdot C)$

 $A + (\overline{A} \cdot B) = A + B$ $A \cdot (\overline{A} + B) = A \cdot B$

■ 復習がてら、いくつか確認してみる

$$A \cdot 0 = 0$$

$$A \cdot 1 = A$$

$$A + 0 = A$$

$$A + 1 = 1$$

$$A \cdot \bar{A} = 0$$

$$A + \bar{A} = 1$$

論理積

Α	В	Υ
0	0	0
0	1	0
1	0	0
1	1	1

論理和

Α	В	Υ
0	0	0
0	1	1
1	0	1
1	1	1

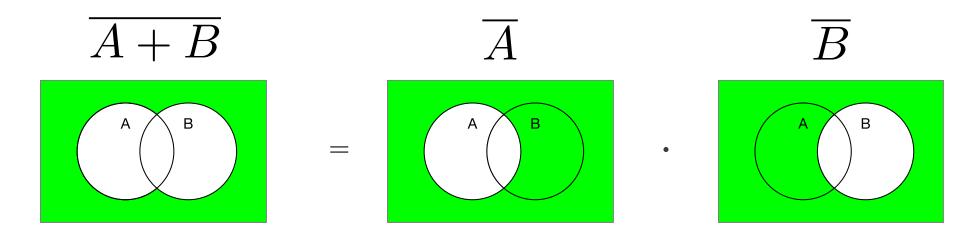
■ド・モルガンの定理

$$\overline{A + B} = \overline{A} \cdot \overline{B}$$
$$\overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$$

全体の否定が個別の否定に変わり、かつ和と積が入れ替わる.

■ド・モルガンの定理をベン図で確認

$$\overline{A+B} = \overline{A} \cdot \overline{B}$$



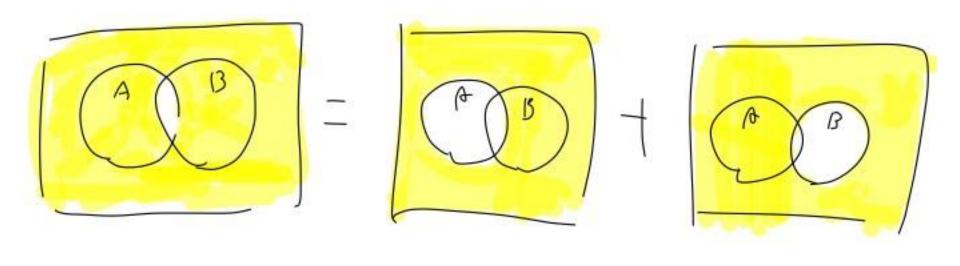
ベン図の掛け算は塗られた部分のうち重複する部分が残る.

演習

• $\overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$ 計算をベン図で確認せよ.

▮演習

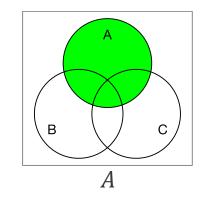
• $\overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$ 計算をベン図で確認せよ.

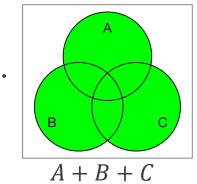


論理式の簡単化

- 論理式をより短い簡単な形にすることを簡単化という.
- ・次の論理式を簡単化してみる.

$$(A + B) \cdot (A + C) = A \cdot A + A \cdot C + A \cdot B + B \cdot C$$
$$= \underbrace{A \cdot (A + B + C)}_{A + B \cdot C} + B \cdot C$$
$$= \underbrace{A \cdot (A + B + C)}_{A + B \cdot C}$$





演習

・次の論理式を簡単にせよ.

$$(A+B)\cdot(A+\overline{B})$$

$$\overline{A \cdot B} + \overline{A} \cdot B$$

$$(A+B)\cdot (A+C) + C\cdot (A+\overline{B})$$

演習

・次の論理式を簡単にせよ、
$$A$$
 $(A+B)\cdot(A+\overline{B})=\widehat{A\cdot A}+A\cdot\overline{B}+A\cdot B+\widehat{B\cdot B} \rightarrow \mathcal{D}$
 $=A+A\cdot(\overline{B}+B)$
 $=A$
 $\overline{A\cdot B}+\overline{A\cdot B}=\widehat{A+B}+\overline{A\cdot B}$
 $=\overline{A}\cdot(1+B)+\overline{B}=\overline{A}+\overline{B}=\overline{A\cdot B}$
 $(A+B)\cdot(A+C)+C\cdot(A+\overline{B})=A\cdot A+A\cdot C+A\cdot B+B\cdot C+A$

$$(A+B)\cdot(A+C)+C\cdot(A+\overline{B})=_{A\cdot A+A\cdot C+A\cdot B+B\cdot C}+_{A\cdot C+\overline{B}\cdot C}$$

$$=_{A}(A+B+C)+C\cdot(B+\overline{B})$$

$$=_{A}+C$$

■ 演習

- 次の論理式で誤っているのはどれか(第30回ME2種).
- 1. $A \cdot (B + C) = A \cdot B + A \cdot C$
- 2. $A + A \cdot B = A$
- 3. $A + \bar{A} = 1$
- 4. $\overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$
- 5. $A + \overline{B} = \overline{A} \cdot B$

■ 演習

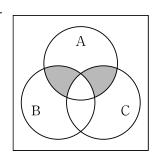
- 次の論理式で誤っているのはどれか(第30回ME2種).
- 1. $A \cdot (B + C) = A \cdot B + A \cdot C$
- 2. $A + A \cdot B = A$
- 3. $A + \bar{A} = 1$
- 4. $\overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$
- 5. $A + \overline{B} = \overline{A} \cdot B$

- 1. $A \cdot (B + C) = A \cdot B + A \cdot C$
- 2. $A + A \cdot B = A(1 + B) = A$
- 3. $A + \bar{A} = 1$
- $4. \quad \overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$
- 5. $A + \overline{B}$ これ以上簡単にできない

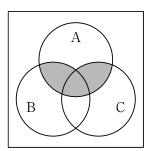
■演習

・次のベン図が表す論理式を答えよ. ただし, 図中の網掛け部分が論理値の1を表す. 第33回臨床工学技士国家試験改

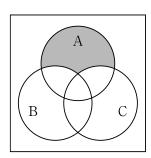
1



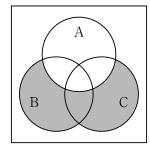
2.



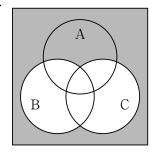
3.



4.



5

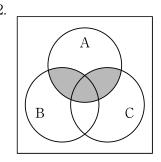


演習

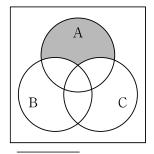
• 次のベン図が表す論理式を答えよ. ただし, 図中の網掛け部分が 論理値の1を表す。第33回臨床工学技士国家試験改

В

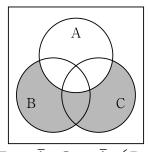
 $A \cdot B \cdot \bar{C} + A \cdot \bar{B} \cdot C$ $= A \cdot (B \cdot \bar{C} + \bar{B} \cdot C)$



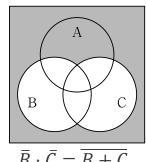
$$A \cdot B + A \cdot C = A \cdot (B + C)$$



 $A \cdot \overline{(B+C)} = A \cdot \overline{B} \cdot \overline{C}$



$$\bar{A} \cdot B + \bar{A} \cdot C = \bar{A} \cdot (B + C)$$



 $\bar{B} \cdot \bar{C} = \overline{B + C}$